

Sent: Wednesday, February 11, 2004 5:38 PM  
Subject: 母 直腸ガン手術・入院に関する経過ならびに回答資料

入院ならびに手術、経過等の資料をお送りいたしますので  
お忙しいところ申し訳ございませんが、よろしくお願ひいたします。

尚、添付ファイルは以下の通りです。

- ・電子カルテの内容より転記  
「■文江診療・入院経過に関する情報資料.doc」
- ・第2回病院側との面談に対する回答要望  
「■文江 直腸ガン治療に関する確認依頼.doc」
- ・第2回病院側との面談時の質問回答  
「母病院側回答041212-00.jpg～」
- ・第2回病院側との面談時の追加質問回答  
「■文江様 追加報告書.doc」

上記2回目の面談では、病院長、事務長、担当主治医の先生  
が参席されました。

実際には手術時の出頭医の教授は第1回の面談時に心無い回答

- ・なぜ、術後にICUに入室できなかったという質問に対し、  
「ICUは手術前に予約していないと入室できない」という回答。  
命と手続きのどちらが重要な質問に、院内ルールを重んじて  
必要以上に遺族を納得させようとした。
- ・出血部位を確認しても、「抹消血管の・・・」の回答をして  
意図しない回答が帰ってくる。
- ・1000例以上ガン手術を行っているが、こんな事例は1~2例しかない。
- ・「母は特異(特殊)体質だ・・・」
- ・出頭医の教授は、術後何の話もなく、誠意が見られなかった。  
等の関係で、参加を辞退していただきました。

現在、父は弁護士を依頼し、訴訟の方向で動いております。

以下の点が不可解で、遺族側の主な疑問点になっています。

- ・術後報告、第1回の面談時は「DIC」「preDIC」の説明も無く  
第2回の面談時に初めてその言葉が出てきており、なぜ術後  
約4ヶ月経過後に伝えられたのか？
- ・教授は「DIC」関連の用語を知っていたならば、なぜ「特異(特殊)体質」  
などの言葉を使ったのか？
- ・術後の出血でビリルビン数値が異常になり、それが致命的だった  
のではないかと推測されるが、止血に苦慮するほどの手術なのに  
術後、意識改善に伴う血圧上昇等も当然ある為、適切な看護・  
監視体制だったのか？
- ・第2回目の面談で質問に関する説明を受けている時、担当医の先生が  
人体解剖図のような書物で手術時の切開した箇所や出血場所を説明  
された時「僕がきれいに切除しました」と発言しました。  
ですが、出頭医の教授が手術したと聞いており、担当医の先生も手術に  
同席していました。ちなみに、手術日は教授の手術する曜日(火・木)  
以外の月曜日に行われており、術後約1ヶ月は誰が出頭医だったのか  
説明を貰っておりませんでした。
- ・血小板数値が10万以上なら問題ないという説明を受けましたが、  
検査時の血小板数値は「23.6万」あったのに、手術当日の事前検査では  
「13万」と10万以上下がっていた事についての回答がありません。  
また、生命に関係する場合がある凝固系検査が保険適用外という  
観点から通常しないという回答にも納得がいかなかった。
- ・大量出血時には「DIC」に陥る場合があることは、一般的に医療  
従事者なら知られている事なので、特別な事ではないのではないかと。  
何らかの原因で大量出血し「DIC病態」になったのでは？  
血液等何らかの証明できる物は無く、記録しか無いと説明を受けて  
おります。
- ・本人ならびに家族には、インフォームド・コンセントを行っておらず  
患部(500円玉強の腫瘍)の手術は簡単に終わるから安心との説明しか  
なかった。(病院側は認めております)
- ・母は同病院で「脳梗塞」の為、手術の約2年前に入院しており、  
その後、その関係の薬を飲んでいた。
- ・匿名で「病院側の手術ミスを暴け」という葉書が数通送られており、  
4リットルもの出血があったことが書き記されていました。  
第2回の面談でわかったのですが、術中の出血量とほぼ一致して

いました。

家族内では今回の件は納得いかない点多々あり、しかし  
どう対処すればよいか苦慮しております。  
今後の展開に多少でもためになる情報がございましたら  
お手数ですがアドバイスを願ひ致します。

以上、よろしく願ひいたします。